

令和6年度第1回平塚市文化財保護委員会 会議録

日 時

令和6年7月10日(水)
午後2時30分から3時40分まで

場 所

平塚市埋蔵文化財調査事務所
展示・講座室

出席者 10人〔傍聴人 0人〕

委 員：近藤委員長、吉田(鋼)委員、小川委員、薄井委員、丸島委員、山本委員
事務局：石川部長、石塚課長、中嶋課長代理、五十嵐主査

(事務局) 挨拶

(委員) 挨拶

(事務局) 資料確認

1 報告事項

(1) 令和5年度の文化財保護事業について(資料1) 【公 開】

(委員長)

報告事項(1)の令和5年度の文化財保護事業について事務局より説明願いたい。

【資料1に基づき、事務局より説明】

(委員長)

令和5年度の文化財保護事業について説明があった。この件に関して確認したいこと、質問、提案、提言はあるか。

(委員)

2ページの指定文化財の現状変更に、「おおやまでらえんぎえまき大山寺縁起絵巻」があり、「展示に伴う市外への移動」とあるが、17ページの文化財の活用には記載がない。具体的にどこに貸したのか。

(事務局)

確認する。資料については、記載漏れのため修正する。

(委員長)

修正したものを次回提示してもらいたい。

(委員)

4ページ埋蔵文化財の事務処理件数について、事前相談書作成件数が579件とある。例年これくらいの数か。また、今年度の埋蔵文化財指導の担当は何名か。

(事務局)

件数は概ね例年どおり。埋蔵文化財指導は3名で対応している。

(委員)

人数に対し件数が多い。対応しきれているのか。

(事務局)

窓口協議は、文化財保護担当職員全員で対応できるようにしている。

(委員)

過去にはこうした統計データが提示されていなかった。こうした数字を表に出していくことで文化財保護部局の業務の多さを知ってもらうことができる。必要な人数の配置にもつながる。積極的に公開した方が良い。

(委員)

15 ページ、文化財写生作品展について、展示数が 5 作品ということだが、応募数が 5 点ということか。

(事務局)

そのとおり。

(委員)

過去には多数の応募があったと思う。写生会も行っていた。

(事務局)

過去には学校の取り組みの中に位置づけてもらって多数の応募につながっていたこともある。コロナ前でも 30～40 作品くらいであった。写生会は夏の時期で猛暑もあり、実施は難しい側面がある。

(委員)

神奈川県でもポスター展を実施しているが、他県の文化財が主題の作品をよく見る。県内・市内の文化財を主題に描いてもらいたいという思いがある。

(事務局)

市の写生作品展に出品して、県のポスター展にも出品する応募者はあまりいなかったように思う。丸島委員が言うように、市内の文化財を主題に選んでもらえるよう、市内文化財の情報発信が必要。

(委員長)

12 ページ、包蔵地外の踏査について 2 点ある。1 点目は、市内の地名の読み方について、市外の人では読めないことも多い。ぜひフリガナをふってもらいたい。2 点目は、踏査の結果、周知化をするということだったが、いかがか。

(事務局)

フリガナについては、今後気を付ける。周知化については、埋蔵文化財担当者が対応しているところ。周知化された際には報告する。

(委員)

13 ページ、延命寺仏像調査について、過去の悉皆調査から年月を経て見直した結果、年代を確定できたもの。今後もこうした見直しは継続するべき。

2 審議事項

今後の文化財の指定等について（資料2）【非公開】

3 その他【公開】

（委員長）

その他で意見があれば発言を願う。事務局、あるいは先生方から用意があればお願いしたい。

（事務局）

今年度の文化財公開について、正福寺の薬師如来立像を中心に、博物館所蔵の絵画等指定文化財の展示を、博物館寄贈品コーナーで10月4日～11月4日の予定で行う。絵画については、一部傷みが激しく、今後計画をたてて修繕していく必要がある。

（委員）

傷みとは具体的にどのようなものか。

（事務局）

絵本体や表具に傷みが見られる。

（委員）

修繕含め課題の9割は予算がつけば解決するもので、その費用獲得が難しいのが現状。神奈川県でも実現できていないが、文化振興基金等の仕組みの必要性を感じる。全て公費でまかなうのは難しい時代。企業等の社会貢献の在り方なども考えていかなければならない。

以上